



2026年1月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年9月11日

上場会社名 株式会社きんえい

上場取引所 東

コード番号 9636 URL <https://corporate.kin-ei.co.jp>

代表者 （役職名） 取締役社長 （氏名） 作田 憲彦

問合せ先責任者 （役職名） 執行役員経理部長 （氏名） 森本 清士 （TEL） 06(6632)4553

半期報告書提出予定日 2025年9月12日

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年1月期第2四半期（中間期）の業績（2025年2月1日～2025年7月31日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年1月期中間期	1,878	4.6	178	5.5	181	5.8	128	10.0
2025年1月期中間期	1,795	△2.1	169	△2.2	171	△0.7	117	△0.7

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年1月期中間期	46.20	—
2025年1月期中間期	41.98	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年1月期中間期	5,796	2,682	46.3
2025年1月期	5,923	2,580	43.6

（参考）自己資本 2026年1月期中間期 2,682百万円 2025年1月期 2,580百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年1月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2026年1月期	—	0.00	—	—	—
2026年1月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年1月期の業績予想（2025年2月1日～2026年1月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,660	2.5	230	△18.6	240	△17.9	155	0.3	55.60

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年1月期中間期	2,821,000株	2025年1月期	2,821,000株
2026年1月期中間期	33,004株	2025年1月期	32,939株
2026年1月期中間期	2,788,015株	2025年1月期中間期	2,788,106株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

文中における将来に関する事項は、当中間会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、企業収益は改善し、設備投資に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響には引き続き注意が必要であり、海外における政情不安や米国の通商政策の影響などによる海外景気の下振れリスクが懸念され、先行きは不透明な状況で推移しております。

この間、当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度の高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図りましたところ、売上高は、前年同期に比較して4.6%増の1,878,021千円となりました。さらに、諸経費全般に亘って鋭意抑制に努めました結果、営業利益は5.5%増の178,397千円、経常利益は5.8%増の181,154千円、中間純利益は10.0%増の128,803千円となりました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、「あべのアポロシネマ」において、“名探偵コナン 隻眼の残像” “『劇場版「鬼滅の刃」無限城編』第一章 猗窩座再来” “国宝” “映画ドラえもん のび太の絵世界物語” “ヒプノシスマイク -Division Rap Battle-” “ウィキッド ふたりの魔女” “ミッション：インポッシブル／ファイナル・レコニング” “ファーストキス” “リロ&スティッチ” “ドールハウス”などの作品を上映して観客誘致に努めました。また、「あべのハルカス」「あべのキューズモール」「天王寺ミオ」などの周辺商業施設と連携したタイアップイベントを積極的に開催し、販売促進を図るとともに、空調設備の整備・保全工事や従業員に対する接遇研修を実施するなど、より快適にご鑑賞いただけるように努めました。また、娯楽場事業におきましては、「あべのアポロシネマ」と一体となった集客を一層推進いたしました結果、部門全体の収入合計は841,407千円となり、営業原価控除後では、113,962千円の営業利益となりました。

不動産事業部門におきましては、アポロビルにおいて、電気・空調・給排水設備にかかる整備・更新のほか、監視カメラの増設等を実施し、ビルの機能及び安全性の維持・向上を図りました。また、ルシアスビルにおいて、電気室設備、中央監視設備及び空調・給排水設備の更新等に計画的に取り組み、より安全で快適なビルづくりを推進しました。そのうえで、空室部分への後継テナント誘致や賃貸借契約更新時等の賃料改定に注力するなど賃貸収入の確保に努めました結果、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めた部門全体の収入合計は、1,036,613千円となり、営業原価控除後では239,739千円の営業利益となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の分析

当中間会計期間末における総資産は、短期貸付金の減少等により前期末に比較して126,843千円減少し、5,796,284千円となりました。

負債は、1年内返済予定の長期借入金の減少等により前期末に比較して228,436千円減少し、3,114,009千円となりました。

また、純資産は、中間純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前期末に比較して101,592千円増加し、2,682,275千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による収入が投資活動及び財務活動による支出を下回ったため、前事業年度末に比較して1,849千円減少し、85,231千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動で得られた資金は、税引前中間純利益の計上及び減価償却費等により230,165千円となりました。前年同期と比較しますと、売上債権及び契約資産の増加等により20,050千円収入額が減少しております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動で使用了資金は、固定資産の取得等により65,121千円となりました。前年同期と比較しますと、短期貸付金の減少等により112,030千円支出額が減少しております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動で使用了資金は、長期借入金の返済等により166,893千円となりました。前年同期と比較しますと、101,162千円支出額が増加しております。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、シネマ・アミューズメント事業部門では、あべの・天王寺エリア唯一の映画館「あべのアポロシネマ」への一層の集客を目指し、魅力ある作品の上映に努めるとともに、安心・快適な環境で映画を楽しんでいただけるように計画的な設備等の更新に取り組んでまいります。さらに、周辺商業施設との共同販売促進策を積極的に推進し、また、簡単・便利な「チケット予約システム」や映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」を積極的にアピールし、集客に努めてまいります。

また、不動産事業部門におきましては、テナント入居率の維持向上による賃貸収入の確保を図るのとはもとより、引き続き設備更新・改良工事等を計画的に進めるなど、ビルのさらなる機能向上を図るとともに、省エネルギー化にも十分に配慮し、より安全で快適な環境づくりに努めてまいります。

以上により、今後とも、安定した経営基盤の確立並びに事業の発展に格段の努力を傾けてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

通期の予想につきましては、売上高は3,660百万円（前期比2.5%増）、営業利益は230百万円（前期比18.6%減）、経常利益は240百万円（前期比17.9%減）、当期純利益は155百万円（前期比0.3%増）となる見込みであります。なお、2025年3月13日に「令和7年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想から、売上高を40百万円、営業利益を10百万円、経常利益を20百万円、当期純利益を25百万円それぞれ増額しております。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2025年1月31日)	当中間会計期間 (2025年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	87,080	85,231
売掛金及び契約資産	112,028	142,012
商品	4,411	5,589
短期貸付金	644,881	529,418
その他	60,413	71,437
貸倒引当金	△730	—
流動資産合計	908,084	833,689
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,754,692	2,707,741
機械及び装置(純額)	100,978	94,692
工具、器具及び備品(純額)	72,989	69,761
土地	1,123,748	1,123,748
建設仮勘定	—	270
有形固定資産合計	4,052,408	3,996,213
無形固定資産	1,735	1,066
投資その他の資産		
差入保証金	890,112	899,138
その他	70,788	66,175
投資その他の資産合計	960,900	965,314
固定資産合計	5,015,043	4,962,594
資産合計	5,923,128	5,796,284
負債の部		
流動負債		
買掛金	128,981	167,076
短期借入金	250,000	337,500
1年内返済予定の長期借入金	243,750	10,000
未払法人税等	54,312	60,871
賞与引当金	10,700	10,100
資産除去債務	—	39,878
その他	596,823	433,688
流動負債合計	1,284,567	1,059,115
固定負債		
長期借入金	—	7,500
退職給付引当金	70,568	67,614
受入保証金	1,580,404	1,620,586
資産除去債務	382,901	345,775
その他	24,004	13,417
固定負債合計	2,057,878	2,054,894
負債合計	3,342,446	3,114,009

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年1月31日)	当中間会計期間 (2025年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	2,091,907	2,192,830
自己株式	△112,637	△112,899
株主資本合計	2,567,625	2,668,286
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,056	13,989
評価・換算差額等合計	13,056	13,989
純資産合計	2,580,682	2,682,275
負債純資産合計	5,923,128	5,796,284

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)	当中間会計期間 (自 2025年2月1日 至 2025年7月31日)
売上高	1,795,720	1,878,021
営業原価	1,477,964	1,524,319
営業総利益	317,756	353,701
一般管理費	148,659	175,303
営業利益	169,097	178,397
営業外収益		
受取利息	1,561	2,637
受取配当金	260	511
保険返戻金	—	2,039
保険差益	1,709	—
雑収入	1,289	92
営業外収益合計	4,820	5,279
営業外費用		
支払利息	2,747	2,517
雑支出	6	6
営業外費用合計	2,753	2,523
経常利益	171,164	181,154
特別損失		
固定資産除却損	2,086	8,094
特別損失合計	2,086	8,094
税引前中間純利益	169,077	173,059
法人税、住民税及び事業税	54,132	55,254
法人税等調整額	△2,113	△10,998
法人税等合計	52,019	44,256
中間純利益	117,057	128,803

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)	当中間会計期間 (自 2025年2月1日 至 2025年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	169,077	173,059
減価償却費	146,697	144,564
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△120	△730
賞与引当金の増減額(△は減少)	-	△600
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,619	△2,953
受取利息及び受取配当金	△1,821	△3,148
支払利息	2,747	2,517
固定資産除却損	2,086	8,094
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	34,138	△29,983
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△13,044	△11,104
仕入債務の増減額(△は減少)	1,168	38,094
未払金の増減額(△は減少)	△42,230	△71,408
その他の流動負債の増減額(△は減少)	3,355	24,245
その他	△5,836	7,946
小計	298,839	278,593
利息及び配当金の受取額	1,754	3,201
利息の支払額	△2,868	△2,520
法人税等の支払額	△47,509	△49,110
営業活動によるキャッシュ・フロー	250,215	230,165
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△204,889	△192,680
短期貸付金の増減額(△は増加)	74,649	115,462
差入保証金の増減額(△は増加)	△39,739	△9,026
受入保証金の増減額(△は減少)	12,703	43,088
その他	△19,875	△21,965
投資活動によるキャッシュ・フロー	△177,151	△65,121
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	-	87,500
長期借入れによる収入	-	20,000
長期借入金の返済による支出	△37,500	△246,250
配当金の支払額	△27,881	△27,880
その他	△348	△262
財務活動によるキャッシュ・フロー	△65,730	△166,893
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	7,333	△1,849
現金及び現金同等物の期首残高	75,248	87,080
現金及び現金同等物の中間期末残高	82,581	85,231

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に公布されました。これに伴い、当社では、第131期(2027年2月1日から2028年1月31日まで)以降に解消が予定される一時差異に対応する法定実効税率を30.6%から31.5%に変更し、計算しております。

なお、これによる当中間会計期間への影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(2024年2月1日から2024年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
劇場収入	700,196	—	700,196	—	700,196
ビル共益費等収入	—	198,923	198,923	—	198,923
娯楽場及びその他事業収入	79,934	13,937	93,871	—	93,871
顧客との契約から生じる収益	780,131	212,860	992,991	—	992,991
その他の収益	—	802,728	802,728	—	802,728
外部顧客への売上高	780,131	1,015,589	1,795,720	—	1,795,720
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	780,131	1,015,589	1,795,720	—	1,795,720
セグメント利益	85,364	232,392	317,756	△148,659	169,097

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当中間会計期間(2025年2月1日から2025年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
劇場収入	759,657	—	759,657	—	759,657
ビル共益費等収入	—	202,630	202,630	—	202,630
娯楽場及びその他事業収入	81,750	13,004	94,755	—	94,755
顧客との契約から生じる収益	841,407	215,635	1,057,042	—	1,057,042
その他の収益	—	820,978	820,978	—	820,978
外部顧客への売上高	841,407	1,036,613	1,878,021	—	1,878,021
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	841,407	1,036,613	1,878,021	—	1,878,021
セグメント利益	113,962	239,739	353,701	△175,303	178,397

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。